

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人 道真会
事業所名	グループホーム はぶやま
所在地	松山市高岡町7 7 9 番 6
自己評価作成日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山を見渡せる静かな環境の中にあり、季節を楽しむことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●散歩中の地域の方の休憩場所にと玄関先にベンチと自動販売機、灰皿を設置されている。職員は、年2回ある近くの公園清掃に参加されており、又、毎朝、前の道路の掃除をされており、散歩中の方と挨拶を交わし、「ありがとう」と声をかけてもらうようなこともある。公園で行われる地域の盆踊り大会時には、車イスを使用する方も職員と一緒に輪に入って踊りを楽しまれた。秋祭りには、神輿が来てくれて、利用者全員が駐車場に出て楽しまれた。管理者は、運営推進会議時に、民生委員の方に誘っていただき、団地内のひとり暮らしの高齢者の方が集まる食事に参加して交流された。今後は、団地の「班長会議」への参加を予定されている。管理者は、建物1階の空室になっているスペースを活用して地域交流に取り組みたいと考えておられ、11月には、地域の方のオカリナ演奏会を開催されたり、12月には、尺八やハンドベルのボランティアの方の協力を得て、クリスマス会を予定されている。又、地域の方が作っている野菜の販売等のイベントを考えておられた。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名

グループホームはぶやま

(ユニット名)

3階星組

記入者(管理者)

氏名

喜安 直美

評価完了日

2013年11月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念である「いつも笑顔、優しさ、思いやり」の言葉は目の届くところに掲示している。毎日朝礼の際に唱和して、新たな気持ちで業務に取り組めるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、新人職員に、「利用者の立場に立ったケア」を大切にケアを実践できるよう、理念とつなげて話しておられる。理念とともに「素直な心」「反省の心」「感謝の心」「謙虚な心」「奉仕の心」の「五つの心」を朝礼時に唱和されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 朝の清掃時などに挨拶を交わしたり、地区の公園清掃などにも参加して交流を深めている。施設周りを散歩しているり利用者・職員と地域の方が会話するなどの姿も見られる。	
			(外部評価) 散歩中の地域の方の休憩場所にと玄関先にベンチと自動販売機、灰皿を設置されている。職員は、年2回ある近くの公園清掃に参加されており、又、毎朝、前の道路の掃除をされており、散歩中の方と挨拶を交わし、「ありがとう」と声をかけてもらうようなこともある。公園で行われる地域の盆踊り大会時には、車イスを使用する方も職員と一緒に輪に入って踊りを楽しめた。秋祭りには、神輿が来てくれて、利用者全員が駐車場に出て楽しめた。管理者は、運営推進会議時に、民生委員の方に誘っていただき、団地内のひとり暮らしの高齢者の方が集まる食事会に参加して交流された。今後は、団地の「班長会議」への参加を予定されている。管理者は、建物1階の空室になっているスペースを活用して地域交流に取り組むたいと考えておられ、11月には、地域の方のオカリナ演奏会を開催されたり、12月には、尺八やハンドベルのボランティアの方の協力を得て、クリスマス会を予定されている。又、地域の方が作っている野菜の販売等のイベントを考えておられた。	事業所が地域の中に根付き、利用者が地域の方達とかかわりながら暮らしていけるよう、今後もおつきあいの取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、会議などに来所された際にお話している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 日常の施設での取り組み報告、前回の会議の内容報告、今 回の議題について話し合いをして問題点があれば地域の 方、行政、家族などと話し合い意見交換している。	
			(外部評価) 会議は、2ヶ月毎に開催されており、団地の自治会長、民生委員、 ご家族、利用者2～3名と職員も記録係として交代で参加されてい る。2月の会議で地域との交流について話し合われた際には、自治 会長や民生委員から団地でひとり暮らしする高齢者や小学生との 交流の提案があり、「一緒に行事ができればいいですね」と、仲に 入って連絡等してくれている。利用者は、みなの前で「ご飯もお いしいし、お風呂も入れる。来てよかったと思います」と暮らしにつ いての感想を話してくださった。自治会長の要望もあって、会議で 認知症の勉強会を行っておられる。管理者は、時には開催日時を ご家族が参加しやすいように変更することを考えておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者より頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 連絡は密には取れていないが、会議の際など機会があれ ば、お話しして協力体制がとれるようにするよう心がけてい る。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの担当者の方は、運営推進会 議時、会議内容や地域とのつきあいについて意見やアドバ イスをくださったたり、「徘徊ネットワーク」や「出前講座」の取 組みについて教えていただいたこともある。センター主催の 事業所連絡会には、管理者や職員が出席されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) ワーカー会などで、職員間で意識統一をし拘束しないケアを 基本にしているが、家族の理解をいただいたうえで短時間で あるが行うこともある。	
			(外部評価) 調査訪問時、建物の入り口や事業所の玄関は開放されていた。現 在、気ままに出て行かれる利用者がおられ、職員は散歩等にお誘 いして、気を紛らわすことができるよう支援されているが、職員が手 薄になる夕方等の時間帯には施錠することもあるようだ。ユニットの 出入り口の扉には「鍵を開けてお入り下さい」と貼り紙があった。職 員は、内・外部研修で身体拘束について学んでおられ、管理者 は、「鍵をかけないケアを目指して、今後さらに職員と話合ってい きたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			研修や会議の中で学ぶ機会があり理解し、情報交換しながら、取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			成年後見制度については、研修で学んではいるが理解できていない部分もある。以前は制度を利用されていた方がおられたが現在は、していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			管理者と家族、利用者で話す機会を持ち入所時には理解いただけるように説明をおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			面会時などに、意見や要望があれば話を聞くようにしている。	
			(外部評価)	
			ご家族の面会時に、利用者の日々の状況を報告されている。又、個々の担当者が、年2回、利用者の様子をお手紙にしてご家族に送付されている。しばらく休刊されていた「はぶやま便り」は、外出行事等の写真にコメントを付けて再開されており、居間に掲示しておられ、次号からご家族に送付したいと話しておられた。ご家族から「職員の名前が分からない」という意見があり、職員は首から名札をさげるようにしておられた。	管理者は、来年度は「ご家族への情報提供に力を入れて取り組みたい」と話されており、今年度末には、初めての「家族会を開催したい」と考えておられる。事業所のケアサービスの質の向上に向けて、ご家族に、より理解・協力をいただけるような取り組みを重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ワーカー会などで職員が意見を出し合えるように環境づくりをしている。提案があれば、ケアの中にとり入れるようにしている。	
			(外部評価)	
			職員は、「園芸」「設備」「車イス」「レクリエーション」のいずれかの係りに所属して協力し合って活動されている。管理者は、次回の運営推進会議時には、新人職員が4月からの取り組みを振り返り、話す機会を持ちたいと考えておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			自己評価できる機会が設けられている。有休も入れるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修予定表で、管理者からの指示または自らの希望で研修を受けている。おおむね勤務時間内で受けられている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			事業所の会議や連絡会に参加し、話し合う機会を作っている。職員も他施設との交流ができるように働きかけている。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所時の調査票をもとに生活の状況などを把握し、家族や本人とお話ししながら不安を取り除いていくようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時の管理者との話し合いで情報をお聞きして、不安点があれば確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面会時に家族と話し合う機会を持ち状況報告する。職員は利用者を細目に様子を観察して、本人が必要としていることを何なのか感じとりケアをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら声掛けや動作を行っている。共に楽しむ生活ができるようこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際に、お話を聞き気持ちに寄り添えるようにしている。会議や行事には、参加していただけるよう声掛けする。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時にはホールや居室で、ゆっくり過ごしていただいている。 (外部評価) 地元から入居されている方の希望で、事業所近辺を車でドライブされたこともある。運営推進会議時、利用者が「以前にゲートボールをしていました」とお話をされた際、自治会長が近所でゲートボールをしている場所を教えてください、散歩がてら見学に行かれたことがある。お正月やお盆等に、外泊してご家族と一緒に過ごされる方や、ご家族の来訪時に一緒に外出して、買い物や外食を楽しまれる方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			ホールで個々の自由な時間を過ごすことができている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			家族との相談の上、電話を掛けたり手紙を出したりしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日常の会話から本人が望む暮らし方を把握し、実現できるように支援している。	
			(外部評価)	
			センター方式のアセスメントシートを用いて、利用者の思いや意向の把握に努めておられる。職員が居室を訪ねた際や入浴時には、利用者は、希望や思い等をよく話してくださるようだ。	利用者個々について、これまでの暮らし方や、どのような暮らしを希望されているか等についての情報収集に取り組み、個々がその人らしい暮らしを続けられるよう、支援に採り入れていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			前施設、住み慣れた家での状況など調査表を見たり家族の話など聞いたりして把握」する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			身体の状態で行う項目は変化していくので、日々観察をかかさず行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			話し合いの前に本人や家族の意見をまずお聞きして必要なケアを考えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			事業所では、ご本人の生活の希望を反映した計画作成に努めておられ、職員で出し合った意見をもとに、個々の担当職員と計画作成担当者が話し合い作成されている。毎日、コメントと○・×でモニタリングを行い、3ヶ月毎に評価・見直しをされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			多機能化には至っていないが、日々家族や利用者の声を聞きながら小さなことから始めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源の把握に努めている。少しずつであるが活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の訪問診療が月2回あり、体調に応じて相談の上、受診も行っている。家族・本人との話し合いの上で他医療機関も活用できるよう配慮している。	
			(外部評価) 現在、1名の利用者は、ご家族が付き添い、入居以前からのかかりつけ医を受診しておられるが、他の利用者は、母体医院が24時間体制で診てくれることもあり、ご家族等の希望もあって母体医院の往診を受けておられる。歯科は訪問歯科を利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 変わった情報などあれば医師に報告し相談する。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 細目に家族と連絡を取り、変わったことがあれば伝えていただき情報得るようにきをつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りは現在行っていない。研修会やワーカー会では勉強する機会がある。重度化した場合には早期に家族との話し合いをする。かかりつけ医に相談して指示をあおぐ。	
			(外部評価) 事業所では、契約時に終末期のあり方について、ご家族等に希望をうかがっておられ、「最期まで事業所で」と希望されるご家族が現在、数名おられる。利用者にもお聞きする機会を持っておられ、「苦しくない方がいい」と希望される方が多いようだ。アセスメントシートには、「身内に手を握られて」と最期の希望が記されているものもあった。今後さらに、ご家族や利用者の希望に沿った支援をすすめていけるよう、職員研修等にも取り組まれてはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の訓練があり対応の仕方を学ぶ機会がある。各資料を配布し、協力して対応できるように見直しをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回訓練を行い地域の方との会議の場で報告している。協力体制をとることもお願いしている。 (外部評価) 5月には、事業所独自で夜間の火事を想定した避難訓練を実施された。又、11月には、消防署の協力のもと、日中の火事を想定して実施し、職員は、実際に利用者をユニットの出入り口まで避難誘導された。6月の運営推進会議時、訓練の様子を報告した際には、「歩けない人の避難方法」について質問があり、職員は、階段は毛布を使ったり、おぶって避難させる方法があることを説明された。自治会長からは、集会所の放送で火事を地域に知らせる方法を教えていただき、「協力体制を作っていきたい」と言っていた。事業所からは、災害時には、事業所を避難場所に開放できることを伝えておられる。又、地域の防災訓練に誘っていただき、職員が参加されている。水や食料品を3日分備蓄されている。	管理者は、避難訓練時には、事前に近隣の方にお知らせして協力をお願いしたいと話しておられた。事業所は、山に近く、土砂災害の危険地域にもなっている。さらなる安全安心に向け、地域の方達とも話し合い、土砂災害等のマニュアルを整備する等して、より具体的な取り組みにつなげていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 会議で例を取り上げ話し合うきかいを持ち職員間で確認しあっている。 (外部評価) 管理者は、日頃から職員に、「言葉遣いをていねいに」「大きな声にならないよう」と話しておられる。職員が利用者一人ひとりにゆっくらかかわることで、利用者が元気になっていくことを実感したようなケースもある。男性職員が女性利用者に支援する場合は、時に利用者の方がためらうような様子も見られるようだ。入浴支援等、特にプライバシーに配慮が必要な場面では、利用者の羞恥心にも配慮して、同性介助の希望等も聞いてみてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 話す機会、職員からの声掛けを細目にして思いを伝えやすい雰囲気づくりをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望をお聞きし、本人の気持ちを考えながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 自ら可能な方は身だしなみを整えている。できないときには 職員が手助けしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理前の下ごしらえをしたり、準備・片づけをしていただい ている。 (外部評価) 献立は、法人の管理栄養士が立て、食材は業者から届き、 職員が交代で調理をされている。希望等をお聞きして、肉 じゃがの食材でカレーを作るようなこともある。利用者のお好 きなちらし寿司の献立は、月3回採り入れておられる。朝食 は、週2回パン食で、食パンか菓子パンを選べるようになって いる。野菜の下ごしらえやテーブル拭き等、腰掛けてでき ることを行えるよう支援されている。ユニットによって、ご自分 で下膳する利用者が複数おられる。昼食時は、ひとりの職員 が同じテーブルで一緒に食事して、他の職員は、利用者の 介助に専念されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を確認できる表をチェックしている。必要に 応じて食事を刻みにしたり、とろみをつけたりしてだしてい る。栄養士による献立があり必要なカロリーがとれる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食事の後は必ず口腔ケアをしている。一人ひとりの状態に応 じて、手助けしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべくトイレに座っていただく回数を取り、無駄のないよう配慮している。生活日誌記入し排泄パターンをつかむようにしている。職員間での情報を共有する。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンに沿って、声かけや誘導し、日中は全員がトイレで排泄できるよう支援されている。職員は、衣類の上げ下げや立ち上がり時等は、ご本人の力を活かせるようなケアに努めておられる。便器の前方に手すりを付けて、立ち上がりやすく考慮したトイレもある。廊下には、「トイレ」の文字と矢印を書いた貼り紙を付け、トイレの位置を示しておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を毎日つけており、すぐに確認できるようになっている。便秘の場合は、体操をして身体を動かしたり、水分補給や食事・おやつに一工夫している。長くなる時には、薬が処方されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大まかには入浴日は決まっているが体調や、その時の本人の気分により、できないときには日を変えて入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 入浴は、週3回を基本にして支援されている。季節によって、柚子湯を楽しまれている。車イスを使用する方も職員が二人介助で浴槽で温まれるように支援されているが、状態によっては、1階の元デイサービスに設置されている特殊浴槽を使って入浴を支援されている。「毎日」や「夜」の入浴を希望される利用者もあるが、「夜間に入浴したい」と希望される時には、足浴を支援されている。職員の人員等の制限もあるだろうが、利用者の希望や習慣等も採り入れ、個々が入浴を楽しめるような支援に工夫を重ねていかれてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 身体の状態に応じて休息を取れるようになっている。個々の意思を尊重しゆっくりと時間をすごしていただく。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬手帳が一人ひとりにあり職員間で確認できるようになっている。薬が届いた時のチェックも何度も見直しして服薬指導所などに目をとおしている。新しい薬を服薬した際の変化についても担当医師に報告し職員にも伝えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーション(歌・体操・ゲーム)などをして、楽しめるよう刺激のある一日を過ごしてもらえるように考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望された日には行けない場合もあるが、そのような時は、日を変更して行けるよう支援している。家族に協力を得て散歩や買い物に行かれる方もいる。 (外部評価) 気候の良い時期には、事業所周辺や近くの公園まで散歩されたり、事業所の玄関横に設置されているベンチに腰掛けて過ごされている。夏には、系列施設のそうめん流しに出向き、秋には、すぐ近くにある事業所の畑で、職員が植え付けたサツマイモの収穫を楽しまれた。	 管理者は、「法人の協力を得て、車両を借りる等して遠出のドライブも計画したい」と話しておられた。時には、ご家族もお誘いして、一緒に外出を楽しまれてはどうだろうか。ご家族からは、「外出させてほしい」「散歩をさせてほしい」との希望もあるようだ。利用者のこれまでの暮らしぶり等も探り、習慣や好み等も採り入れ、利用者と地域資源をつなぐような取り組みもすすめていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族や本人と相談して自ら管理できるものは少量であれば所持している。その他は、職員側で管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族との相談の上、電話を掛けたり手紙を出したりしている。携帯を常時もっている方もおられ連絡をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの場所には分かりやすく表示をしている。こまめに温度調節、明るさの調節も行っている。自ら模様替えされる方もおられる。安全面には十分注意している。	
			(外部評価) 事業所は、閑静な大型団地の一角にあり、3階建ての2・3階に位置している。建物の玄関前には、パンジーやポインセチアの鉢植えを配して雰囲気作りをされている。居間は、テレビの前にソファをI字型に配置し、クリスマスツリーが飾られていた。壁面には、職員と利用者と一緒に作ったサンタクロースや、クリスマスツリーの貼り絵が飾られていた。調査訪問時は、ほとんどの利用者の方が食堂や居間に集い、テレビを見たり、おしゃべりをされながら過ごされていた。午後食堂に集い、体操したり、おやつを食べる等して、日中は、食堂や居間で過ごされることが多いようだ。職員が、屋上で洗濯物を干したり、取り込む際には、利用者を誘って一緒に行かれることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールで個々の自由な時間を過ごすことができている。新聞をよんだりテレビを見たりと思い思いに過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自分の使いなれたものを入所時には持参していただいている。面会時には、家族が持参されたものを飾ったりしている。	
			(外部評価) 調査訪問時には、居室の窓から山一面にみかんが実っている景色が眺められた。居室には、ベッドとタンス、洗面所が備え付けられている。テレビやタンスをご自宅から持ち込まれたり、絵がお好きな利用者の部屋には、ご家族が油絵を飾られていた。ベッドから転落する心配のある方は、ご家族と相談して畳に布団を敷いて対応されている。各居室は、毎日職員が換気をしながら掃除をされており、利用者によっては、できることを職員と一緒にやる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具の配置などは工夫し、本人の動きがとりやすいようにしている。車椅子の妨げになるものは取り除いている。	